計画	基本計画	分野	9	文化芸術・文化財	基本政策	13	心豊かな生活を送ることができる	関係課	文化・スポーツ振興課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
1	市民の文化芸術の振興	4	1	安全で快適な施設提供	B	計画的な施設の修繕等 ユニバーサルデザインを意識した施設運営	・キラリ☆ふじみの修繕を計画的に実施し、安全で快適な施設提供に寄与した。 （ピアノオーバーホール、駐車場根上がり改善、空調部品交換、天井反射板ライト交換） ・キラリ☆ふじみの中長期保全計画を策定し、今後20年間の施設維持管理に関する方針を決定した。 ・キラリ☆ふじみ男性用トイレにサニタリーボックスを設置し、誰もが使いやすい施設づくりを推進した。 ・これらの取組により、キラリふじみをより安全で快適に利用することでき、市民の文化芸術の振興を図ることができた。

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値	
	公共施設マネジメント個別計画の策定・運用	なし	策定準備	策定					

No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	活動への支援	A	文化祭の開催支援 文化振興基金の活用等による財政的な支援	・市民文化祭に事務局として関与することで開催を支援し、市民に発表機会と鑑賞機会を提供することができた。（出演・出品者数：784人、来場者数2,866人） ・文化振興基金を活用して、文化芸術によるまちづくり事業、市民文化祭、ＦＵＪＩＭＩ音楽祭等に補助金を交付することで、市民の文化芸術活動を財政的に支援し、市民の文化芸術活動の活性化を図ることができた。

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値	
	支援をした件数	2件（R1）	5件（R3）	8件（R4）				2件以上（R7）	

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値	
	文化芸術活動環境に対する満足度	39.0%（R2）	45.1%(R3)	49.6%(R4)				50.0%（R7）	

課題及び次年度の方向性

・キラリ☆ふじみの施設整備については、中長期保全計画等に基づき、引き続き計画的に取り組む。
（令和5年度予定：大規模修繕実施設計、館内監視カメラ更新、メインホール・マルチホール映像設備更新、外構ポンプ交換）
・文化芸術によるまちづくり事業補助金補助率が、次年度から10/10から3/4へ変更となることにより、補助金申請者数が減少する懸念がある。このため、補助金申請状況等を注視し、必要に応じてより市民に利用しやすい制度への変更を検討していく。

計画	基本計画	分野	9	文化芸術・文化財	基本政策	13	心豊かな生活を送ることができる	関係課	文化・スポーツ振興課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	キラリ☆ふじみを中心とした文化芸術の振興	3	1	鑑賞機会の充実	B	キラリ☆ふじみによる文化創造事業の推進（鑑賞） 舞台芸術鑑賞会の実施 無料コンサートの実施 文化祭の開催	【キラリ☆ふじみ】モガ惑星、薪能（開館20周年記念事業）など 【舞台芸術鑑賞会】松竹歌舞伎舞踊公演、朗読劇（家族草子） 【無料コンサート】陸上自衛隊第一音楽隊コンサート 【市制50周年記念事業】吉本新喜劇富士見市公演、FUJIMI音楽祭 ・市民文化祭や上記事業を実施することで、市民にキラリ☆ふじみにおける鑑賞機会を提供し、文化芸術の振興を図ることができた。
			2	参加・発表機会の充実	B	キラリ☆ふじみによる文化創造事業の推進（参加） 子ども文化芸術大学☆ふじみの開校 文化祭の開催（再掲）	【キラリ☆ふじみ】ダンスフェスティバル、中高生美術展　など 【子ども文化芸術大学☆ふじみ】演劇・ダンス・打楽器・バイオリン・将棋 【50周年記念事業】吉本新喜劇富士見市公演（お笑いワークショップ） ・市民文化祭や上記事業を実施することで、市民にキラリ☆ふじみにおける発表機会を提供し、文化芸術の振興を図ることができた。
			3	情報発信の充実	B	広報「富士見」・ホームページ・ＳＮＳを活用した情報発信 チラシ・ポスターを活用した情報発信	・広報「富士見」や市ホームページ、チラシ・ポスターにより、コンサート等の各種事業の情報を発信した。 ・キラリふじみにおいては、季刊誌「ＨＯＴキラリ」の発行の他、SNSを活用し「ランチタイムinカスケードdeコンサート」をライブ配信するなど、様々な方法で情報発信に取り組んだ。 ・これらの取組により、市民に文化芸術に関する情報を周知することを通じて、文化芸術の振興を図ることができた。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	鑑賞会等の参加者数	32,449人（R1）	2,165人（R2）	4,136人（R3）				現状より拡大（R7）
KSF	参加者数	31,153人（R1）	2,769人（R2）	6,046人（R3）				現状より拡大（R7）
KSF	「事業や文化活動の情報が少ない」と回答した割合	23.2%（H30）	28.4%（R3）	28.4%（R3）				23.2%以下（R7）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	文化芸術事業に対する満足度	33.3%（R2）	36.7%(R3)	48.2%(R4)				50.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

・市民文化祭参加団体から、「新型コロナウイルス感染症の影響により参加者数や出品者数が減少した」という意見もあったことから、引き続き市民文化祭開催を支援することで参加・発表機会を提供し、市民の文化芸術活動活性化を図る。
・キラリ☆ふじみと協力しながら、情報発信の充実を図る。

計画	基本計画	分野	9	文化芸術・文化財	基本政策	13	心豊かな生活を送ることができる	関係課	文化・スポーツ振興課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
3	文化芸術によるまちづくり	3	1	日常生活の中での文化芸術の推進	B	生活に身近な場所でのコンサート等の実施 まちなかを活用したアート空間の創出	・文化芸術によるまちづくり事業（無料コンサート）が公民館等で実施されたほか、地域コンサートを鶴瀬駅で開催するなど、生活に身近な場所で文化芸術に触れる機会を提供することで、市民の文化芸術に関する満足度が向上した。

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	文化芸術アクションプラン事業数	56事業（R1）	32事業（R2）	36事業（R3）				維持

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	「豊かな生活が送れている」と回答した割合	40.0%（R2）	43.7%(R3)	51.1%（R4）				50.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

・ＫＰＩが改善し目標値を達成したが、これには令和4年度に市制施行50周年記念事業として文化芸術事業を多数実施したことが影響している可能性も考えられることから、令和5年度のＫＰＩを注視する必要がある。
・日常生活に身近な場所で文化芸術に親しむことができるよう、引き続き駅や公共施設などまちなかで楽しめる文化芸術事業を実施していく。

計画	基本計画	分野	9	文化芸術・文化財	基本政策	14	地域の歴史や伝統文化を通して地域に魅力を感じる	関係課	資料館

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
1	文化財の保存	3	1	埋蔵文化財に関する適切な対応・指導・周知	B	埋蔵文化財の照会・手続き体制の充実 埋蔵文化財の周知の強化 関係部署との連携	文化財保護法に基づき、市内の埋蔵文化財包蔵地内での開発行為に対し、照会と指導、パンフレット等による周知を行うことで、適切な埋蔵文化財の保護につなげることができた。
			2	文化財の保存体制の拡充	B	資料保管施設の整備	資料の整理・保管施設の整備について、関係各課と調整し、方向性を検討した。
			3	文化財の散逸防止	B	指定文化財候補の検討と指定の拡充 歴史・民俗資料の収集と保管 指定文化財の保存整備（R3）	新規に市指定文化財を１件指定し、資料の保存を図るとともに、その周知を行うことで、適切な埋蔵文化財の保護につなげることができた。
			4	資料の適切な保存	B	劣化の著しい資料の保存処理の実施 歴史・民俗資料の収集と保管	発掘出土資料について、優良な鉄製品の劣化を防止するために、保存処理を１点実施した。今後、展示などへの活用が見込まれ、市民の生涯学習活動のための資料とすることができた。

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	年間の発掘調査件数	35件（Ｒ１）	33件（Ｒ３）	25件（R４）				35件（Ｒ7）
KSF	保管施設の集約化	3か所（Ｒ１）	3か所（Ｒ３）	3か所（Ｒ４）				１か所（Ｒ７）
KSF	発掘調査成果を記した文化財報告書の刊行	１冊（Ｒ１）	１冊（Ｒ３）	１冊（Ｒ４）				１冊（Ｒ７）
KSF	特殊な資料の劣化防止処理を行った件数	0件（Ｒ１）	３件（Ｒ２）	４件（Ｒ４）				５件（Ｒ７）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KPI	市指定文化財の件数	33件（R1）	33件（Ｒ３）	34件（Ｒ４）				36件（R7）

課題及び次年度の方向性

埋蔵文化財整理室の経年劣化が進んでいるとともに収蔵庫の容量が限界を迎えるなど、文化財資料を保存する施設に課題があるため、引き続き、富士見市公共施設個別施設計画に基づいて再編の方向性、対策内容、実施時期の見通しについて、公共施設マネジメント課をはじめ関係課と検討していく。

計画	基本計画	分野	9	文化芸術・文化財	基本政策	14	地域の歴史や伝統文化を通して地域に魅力を感じる	関係課	資料館

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	郷土芸能・伝統工芸の継承	4	1	郷土芸能の継承活動の支援	B	郷土芸能カレンダーの作成・配布 ＨＰを利用した音源や動画の提供 財政的な支援	HPに富士見市郷土芸能カレンダーの掲示及び郷土芸能の動画公開を実施し、周知・PRのための情報発信と、記録資料としての保存を図ることができた。 また、文化財指定された郷土芸能の保存団体に対して、補助金を交付し、活動を支援した。
			2	地域の伝統工芸の継承活動の支援	A	伝統工芸の継承活動の支援 伝統工芸の周知	ほうき作りと扇だこ作りの継承活動を支援している。ほうき作り伝承会は毎月複数回の継承活動を行っている。また、それぞれの体験講座を開催し、活動への参加を呼び掛けた。各団体は、市内各所で、実演や展示などの周知活動に積極的に取り組んでおり、資料館もそれを支援している。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	市指定文化財の郷土芸能保存団体の活動件数	37件（Ｒ１）	7件（Ｒ２）	７件（Ｒ３）				37件（Ｒ７）
KSF	継承活動のための資料館利用回数	20回（H30）	19回（Ｒ２）	52回（Ｒ３）				24回（Ｒ７）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	「富士見市で魅力ある資源」のうち、郷土芸能の割合	1.6%（H30）	－	0.8%（R3）				2.0%（Ｒ６）

課題及び次年度の方向性

未だにコロナ禍の影響による活動制限が多い状況下で、継承活動への財政的支援はもとより、周知のための情報の発信の充実に努める必要がある。

計画	基本計画	分野	9	文化芸術・文化財	基本政策	14	地域の歴史や伝統文化を通して地域に魅力を感じる	関係課	資料館

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
3	文化財の活用	4	1	情報発信の強化	A	公共的施設を利用した発掘成果の発信 指定文化財マップの作成・配布 デジタル資料の活用	商業施設（ららぽーと富士見）を利用した展示（ほるたま展）や南畑公民館における埋蔵文化財写真パネル展示を実施した。「ほるたま展」では２日間で4,009人が来場し、市民へのPRと周知、学習機会の提供へつなげることができた。また、動画や郷土芸能カレンダーの配信など、情報発信の充実に努めた。
			2	歴史公園・資料館施設の活用	B	歴史公園・資料館の維持管理、常設展示の充実と企画展示の開催 講座等の学習型主催・共催事業の実施 参加・体験型主催・共催事業の実施 施設を活かしたイベント型主催・共催事業の実施 学校教育との連携、市民学芸員や友の会等の市民との協働	主催事業については、参加者の定員制や事前申込制とし、新型コロナウイルス感染症拡大防止を十分に講じて実施した。また、３年ぶりに「水子貝塚星空シアター」や「難波田城公園まつり」などの大規模事業も開催することができた。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値	
KSF	年間の展示などの情報発信の企画件数	１件（Ｒ１）	2件（Ｒ３）	４件（Ｒ４）				３件（Ｒ７）	
KSF	主催・共催事業実施数	38回（Ｈ30）	32回（Ｒ２）	67回（Ｒ2・３）				210回（５年間の累積値）	

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	資料館来館者数（水子貝塚資料館・難波田城資料館）	99,942人（Ｈ30）	46,927人（Ｒ２）	77,329人（Ｒ３）				110,000人（Ｒ７）

課題及び次年度の方向性

イベント等の規模・縮小等の制限が多い中でも人流が戻りつつある。社会の動向に併せて事業を実施していくとともに、情報発信の機会の充実や、情報化社会の進展に応じたデジタル資料の利用について研究していく必要がある。
市ホームページで資料館で収蔵している資料を公開するなどの活用方法を検討する。

計画	基本計画	分野	10	生涯学習	基本政策	15	自由な学びにより生きがいができる	関係課	交流センター、コミュニティセンター、公民館、資料館

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
1	自由に学べる学習環境の充実	3	1	ライフステージに合わせた学習機会の充実	B	子育て支援に関する学習機会の充実 家庭学習応援事業の実施、地域子ども教室への支援 子ども大学事業の充実、障がいのある若者の学習支援 まちづくり講座を活用した学習機会の充実、 インターネットを活用した学習機会の創出　　など	子ども大学事業では、7回講義を実施し、定員を超える応募があった。また市制施行50周年を記念して特別記念講演も実施した。他にも、コロナ禍での制限がかかる中、子育て支援に関する事業やまちづくり講座を活用した事業も可能な限り実施し、特にスマホ教室など、ニーズに合わせた事業も展開することができた。
			2	学習情報の発信・相談体制の充実	B	ホームページ、広報紙による情報発信、ＳＮＳを活用した情報発信 チラシ・ポスターの掲出、生涯学習ガイドの発行 地域情報紙による情報発信、情報・資料収集と提供の充実 公共施設職員による相談体制の充実	公民館や交流センターでの広報紙の発行や、ホームページやYouTube等での情報発信に努めた。水谷東公民館では、やなせ川いかだラリーの初回からの写真を紹介した「思い出写真展」、ふじみ野交流センターでは開館20周年記念ムービーをYouTube配信し、今まで以上に利用者の目に留まる広報活動につなげることができた。
			3	推進体制の充実	B	実行委員会等への市民参画機会の充実 公民館運営審議会の運用、町会やまちづくり協議会などとの連携の充実 生涯学習に関する市民参画機会の充実 庁内推進委員会による計画の進捗管理	コロナ禍の影響で一部事業を中止した実行委員会もあるが、公民館運営審議会の実施やまちづくり協議会の活動支援、資料館の市民学芸員の活動支援など、市民の参画機会や地域団体との連携を充実させることができた。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	自分のライフステージに合った事業が行われていると感じる人の割合	14.7%（R2）	－	18.1%（R4）				25%（R7）
KSF	生涯学習に関する情報が手に入りやすいと回答した人の割合	36.0%（R1）	－	－				40.0%(R7)
KSF	生涯学習推進市民懇談会の実施回数	２回(R1)	１回(R3)	１回(R4)				２回(R7)

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	学習活動支援に対する満足度	45.6%(H30)	－	46.8%（R3）				50.0%(R7)

課題及び次年度の方向性

様々な対象者向けの事業を実施しているが、定員に満たない事業もあり、市民に開催情報が行き届いていないと推測される。そのため情報化社会のツールが発展した今、広報やホームページに加え、SNSの活用のような時代に即した周知方法が必要。また、事業参加者の声や参加者アンケートから市民ニーズを把握することによって、誰一人取り残さない学習環境の充実を図っていく。

計画	基本計画	分野	10	生涯学習	基本政策	15	自由な学びにより生きがいができる	関係課	交流センター、コミュニティセンター、公民館、資料館

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	地域資源を活かした生涯学習の推進	3	1	地域資源を活かした学習機会の提供	B	歴史・文化財・郷土芸能を生かした学習機会の充実 文化芸術を生かした学習機会充実、産業を生かした学習機会充実 高校や大学などとの連携の推進、多様な人材を生かした学習機会の提供 地域の自然等を生かした学級講座等の開催 世代間交流になる学習機会の充実、地域団体との連携による学習機会支援	商業施設ららぽーと富士見や公民館を利用した文化財展示のほか、地域に身近な柳瀬川を活かした「川の探検隊」や「いかだラリー」などをはじめ、地域の資源を活用し、学習機会と地域交流の場の創出につなげることができた。

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	地域の産業や資源、歴史や文化を活かした事業数	18事業(R1)	10事業(R2)	31事業（R3）				20事業(R7)

No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	地域の人材を活かした学習機会の提供	B	市民人材バンク制度の充実 市民学芸員活動の充実 各種ボランティアに関する学習の推進 ＮＰＯや市民団体との連携の充実	市民人材バンク推進員の会が主催するモデル事業や広報の作成に対する事務的支援を行い、公民館事業においても水谷東公民館では、市民人材バンクの活用により熟年学級に新たに押し花クラブが開講し、好評を得た。また、水谷公民館では小学校に戦争体験話者を派遣するなど、地域の人材を活かした学習機会を提供できた。

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	市民人材バンクの依頼件数	522件(R1)	74件（R2）	79件（R3）				550件(R7)

No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
3	新たな人材の発掘	B	各種事業への参画機会の拡充	市民人材バンクでは、登録件数はＲ４年度（1月6日現在）256件で、Ｒ３年度249件と比較して７件の増となっている。また、登録内容としても自然環境やボッチャなどの内容での登録が増え、新たな事業機会や人材の拡充につながった。

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	地域の担い手育成を推進する事業数	23事業（H30）	７事業(R2)	11事業（R３）				25事業(R7)

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	人材バンクを活用して「よかった」と回答した人の割合	89.0%(R1)	100%（R２） ※コロナ禍で件数が少数であったため	100%（R３）				90.0%(R7)

課題及び次年度の方向性

地域資源・人材を活かした学習機会の提供、新たな人材発掘については、それぞれ一定の成果があった。人材バンクの利用については依頼があって成立するものであり、依頼件数を増やすことが課題。ホームページ、チラシ、SNSなど様々な媒体による周知活動に努めることにより、市民の新たな興味関心をより引き出していけるよう事業展開を進めていく。

計画	基本計画	分野	10	生涯学習	基本政策	15	自由な学びにより生きがいができる	関係課	交流センター、コミュニティセンター、公民館

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
3	生涯学習を通じたコミュニティの充実	3	1	学習成果の発表機会の充実	B	学習成果の発表機会の充実 市民の交流機会の創出 市民と地域との交流機会の創出 農バルプロジェクト支援（R4）	公民館等では文化祭や各種まつりなどコロナ対策を講じながら実施することができた。また、みずほ台と針ケ谷のコミュニティセンターが合同事業を実施し、地域間交流を図ることができた。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	文化祭等の参加人数	21,000人（H30）	0人（R2）	527人（R3）				22,000人（R7）

No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	学習成果の活用機会の創出	B	市民人材バンク制度の利用促進 学習者と地域をつなぐ支援の充実	公民館等で人材バンク登録者を講師として活用したり、市民人材バンク推進員の会が主催するモデル事業を行い、登録者の利用の促進を図ることができた。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	協働によるまちづくり講座の実施回数	33回(R1)	7回（R2）	17回（R3）				35回(R7)

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KPI	生涯学習を通じて「つながり」を感じている人の割合	29.2%（R2）	－	19.8%（R4）				40.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

コロナ禍においても実施方法を工夫しながら学習成果の発表や活用する事業を実施することができたが、コロナ前の状況には未だ戻っていない。ICTを活用することのできる環境は整ったが、すべてICTを活用する事業に変更することが正解ではないため、対面に適した事業、オンラインに適した事業、融合すべき事業など、手法の見極めが課題となる。情報ツールを活用した事業展開を検討しながら、事業を継続・発展させていく。

計画	基本計画	分野	10	生涯学習	基本政策	15	自由な学びにより生きがいができる	関係課	交流センター、コミュニティセンター、公民館、資料館

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
4	生涯学習関連施設の充実	3	1	施設の整備・機能の充実	B	多様な学びを支援する施設機能の充実 快適な読書空間の提供 ユニバーサルデザインを意識した施設提供 公共施設マネジメントによる個別計画の策定と運用 図書館カードとしてのマイナンバー利活用（Ｒ4） 図書館利用カードの電子化（Ｒ4） 電子図書館で利用できるコンテンツの充実（Ｒ4）	公民館において、Wi-Fi環境の整備や学生のために学習空間を提供するなど、学びを支援する施設の充実に努めた。また、ＤＸ推進計画に基づき、マイナンバーカードや携帯端末を利用した貸出しなど図書館の利便性を向上するための計画や、電子図書館の利用促進のためのコンテンツの充実について、Ｒ５年度の実施に向けて検討した。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	各公民館・交流センター・コミュニティセンター・ピアザふじみ・図書館の利用者数	582,747人（H30）	282,776人（R2）	383,792人（Ｒ3）				585,000人（R7）

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KPI	生涯学習の活動できる環境に対する満足度	15.1%（R2）	－	36.2%（Ｒ4）				25.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

富士見市公共施設個別施設計画に基づき、計画的な整備を実施していく。ICTの進展が加速している中で、公民館等のWi-Fi環境も整備されたが、単なるWi-Fiスポットにならないように、社会教育施設として世代に応じた学習機会の提供について検討していく必要がある。また、図書館において次年度以降も電子図書の整備が進むがどのように利用者を取り組むかは課題となる。指定管理者と協議を行いながら利用者の増加に結び付けていく。

計画	基本計画	分野	11	人権・男女共同参画	基本政策	16	一人ひとりが尊重され、誰もがともに活躍できる	関係課	人権・市民相談課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
1	人権教育・啓発の推進	3	1	人権意識の向上	B	広報等による人権意識の啓発 人権啓発イベントの開催 人権啓発講座等の開催 性的マイノリティに関する理解促進	広報紙・HP等による人権啓発及び、講座等事業案内を実施。子どもを対象にした啓発事業を学校と連携して実施。事業後アンケートから参加者の人権意識向上が見られるなど一定の成果を上げることができた。

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	広報による啓発等の実施回数	1回/年（R1）	4回/年	4回/年				3回/年（R7）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	人権の大切さを認識している割合	94.0%（R1）	-	-				96.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

新型コロナウイルス感染症の影響が続くとみられるため、啓発事業の実施にあたっては、啓発効果とともに参加者の安全・安心に十分留意することが必要である。集合型のほかオンライン等も適切に取り入れながら効果的な啓発に努めていく。

計画	基本計画	分野	11	人権・男女共同参画	基本政策	16	一人ひとりが尊重され、誰もがともに活躍できる	関係課	人権・市民相談課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	男女共同参画の推進	3	1	男女共同参画意識の啓発	B	男女共同参画講演会・セミナー等の実施 広報、ホームページ等での情報発信 さまざまなハラスメント防止に向けた周知啓発 多様な性・多様な生き方への理解促進"	男女共同参画推進会議と共催でセミナーを２回実施し、多数の参加者から「男女共同参画や多様な性への理解が深まった」との回答を得た。また、令和4年4月1日より開始した「富士見市パートナーシップ宣誓制度」については一定程度の利用があり、多様な性・多様な生き方への啓発と環境整備を進めることができた。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	講演会・セミナー等の開催件数	3回（Ｒ元）	0回	2回 （予定）				継続（Ｒ7）

No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	女性の社会進出の促進	B	審議会等への女性の参画促進 女性職員の管理職登用促進と活躍の場の拡大 女性関係団体への支援 女性の再就職・起業の支援	女性の職場での活躍や育休後の職場復帰支援のため、広報の「男女共同参画ひろば」にて改正育児・介護休業法を周知し、女性の社会参画、男性の家庭参画意識の高揚を図った。審議会の女性委員の割合については、今後も目標値に向けて、さらに周知・啓発を行なう。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	市審議会における女性委員の割合	31.8% （Ｒ元）	31.6% (R3)	32.9% (R4)				40.0% （Ｒ7）

No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
3	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進	A	ワーク・ライフ・バランスに関する情報提供や啓発の実施 男女がともに担う家事・育児・介護の講座等の実施 男性の育児休業取得促進への推進・啓発	例年、母子手帳とともに配布している「男性向け子育てリーフレット」のほか、広報の男女共同参画ひろばにて改正育児・介護休業法をとりあげ、関連サイトや相談先の情報提供を行なったことで、ワーク・ライフ・バランスへの関心を高められるようにした。また、男性を主対象としたセミナーを実施（３月予定）し、男性の家事・育児・介護等への参画意識を高められるようにした。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	市男性職員の育児休業取得の割合	24.0%（H8～Ｒ元平均値	53.8% (R3)	57.7% (R4)				30.0% （Ｒ7）

	タイトル	現状値	R3	R4	R5		R7	目標値	
KPI	男女の地位が平等となっていると感じている市民の割合	22.3% （R1）	-	22.8% （R3）				30.0% （R7）	現状値は第16回富士見市民意識調査より。R4は「令和3年度第3回富士見市アンケートモニター調査」（令和3年3月実施）より（令和4年度に公表）。

課題及び次年度の方向性

新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、安全面から大きな規模の講演会の開催は見送った。今後も広報やホームページなどあらゆる媒体を活用し、男女共同参画のための啓発活動に取り組むとともに、感染防止対策を図りながら、講演会やセミナーを実施していきたい。

計画	基本計画	分野	12	地域コミュニティ	基本政策	17	市民が主役のまちづくり	関係課	協働推進課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
1	町会運営への支援	3	1	コミュニティ力向上のための支援	B	加入促進の支援 正副町会長の負担軽減 町会運営マニュアルの作成 町会PRの支援	市ホームページにおいて町会紹介ページを作成・配布し、加入促進及び町会ＰＲを支援するとともに、正副町会長を務めるにあたり必要な資料を掲載し、必要時にダウンロードできるようにした。また、町会長連合会と共同で作成した町会運営マニュアルを、より時代に即した町会運営ができるよう見直した。
			2	情報交換や集まれる場所の提供	B	市立集会所の修繕 掲示板の維持管理 地域立集会所への補助	情報交換や集まれる場所を維持管理するため集会所の修繕を１２件、掲示板の修繕を1件行った。また、高齢化に伴うニーズの変化に対応するため、手すりの設置を２件行った。 加えて、３か所の地域立集会所に光熱水費の補助を行った。

KSF（No. 1）

タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
加入促進策の実施	１施策/年（R1）	2施策/年（R2）	2施策/年（R3）				3施策/年（R7）

KSF（No. 2）

タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
集会所のあり方の検討		大規模修繕時に検討した	修繕があるごとに検討した。				

KPI

タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
コミュニティ活動の推進に対する満足度	49.9%（H30）	-	53.8%（R3）				53.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

町会の加入率の低下及び役員の高齢化が課題となっており、市の各種委員等の選出にも正副町会長が苦慮している状況がある。町会長連合会と連携し、町会組織の在り方ついての検討を進める。
集会所については、利用状況や地域の状況、近隣の公共施設や地域立集会所などを勘案し、修繕や大規模修繕時にあり方を検討しており、ニーズの変化に合わせてフローリング化などの対応を行っているが、地域の特性により利用率やニーズにバラつきがあり、一律に対応することが難しいため、その都度検討を要する。

計画	基本計画	分野	12	地域コミュニティ	基本政策	17	市民が主役のまちづくり	関係課	協働推進課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	地域まちづくり協議会への支援	2	1	設立の支援	C	未設置地域への設立の働きかけ 地域データの整理	町会の活動も少しずつ戻ってきているため、情報収集を再開している。 未設置地域への情報交換会を働きかける予定。
			2	活性化支援	B	協議会同士の交流促進 事業取り組みへの助言・支援	６地域のまちづくり協議会に対し担当職員による会議への参加や事務的支援を行うほか、共催で地域問題に係る講習会を開催するなど協議会の活性化に繋がる支援ができた。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	地域まちづくり協議会の数	6ケ所（R1）	6ケ所（R2）	6ヶ所（R3）				11ケ所（R7）
KSF	協議会同士の交流の継続	実施（R2）	未実施（R３）	継続（予定）				継続（R７）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	「住みよい」理由の「まちに愛着がある」の割合	23.3%（H30）	-	22.8%（R3）				30.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

未設置地区のうち、みずほ台小学校地域を中心に、設置への取り組みを進める。
地域によっては、まち協を必要と感じていないという実態があり、設置の機運が高まっていかない。
みずほ台小学校地域では、「防災」に関する意識の高まりがあり、設置の可能性があるため、引き続き、支援を続けていく。

計画	基本計画	分野	12	地域コミュニティ	基本政策	17	市民が主役のまちづくり	関係課	協働推進課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
3	協働によるまちづくり	3	1	新たな枠組みでの地域課題への取組	B	協働事業提案制度の運用等の見直し アイデア提案制度の活用の検討 行政提案制度のあり方の見直し	これまでに審議会及び庁内委員会で協議した結果を踏まえ、複数年度補助の導入等のR5制度改正に向けて進めている。行政提案制度・アイデア提案制度を廃止し、小規模事業提案への補助金メニューの創設に向けて継続して検討中。（審議会及び庁内委員会　各2回開催）

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	協働提案制度への応募数	4件/年 （H30）	0件/年 （R3）	3件/年 （R4）				5件/年 （R7）

No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	市民団体との協働の継続と支援強化	B	ミニ鉄道運転会の実施とPR強化 ふるさと祭りの実施 NPO等への支援	ミニ鉄道運転会13回実施、1,276人が参加(事前申込制)。民間広報紙等にも掲載してもらい、多くの親子の参加・交流ができ、地域コミュニティの醸成が図れた。ふるさと祭りは感染対策を行い、市民のステージ出演・出店等の市民参加型企画や市制施行50周年記念イベントを取り入れて開催。約36,000人の来場者にふるさと富士見の良さをPRできた。 市内NPO交流会を2月に開催予定。団体間のネットワークづくりの促進を図る。

KSF	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	市民団体との協働事業の実施数	延べ116件 （R1）	延べ114件 （R2）	延べ113件 （R3）				延べ136件 （R7）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	市民参加・協働の推進に対する満足度	42.3% (H30)	-	43.9% (R3)				56.0% （R7）

課題及び次年度の方向性

協働事業提案制度の応募数や市民団体との協働事業の実施数は目標値を達成していないが、協働事業提案制度の見直しを行い、新たな提案者の発掘・裾野の拡大を図っていくことにより、多様な地域課題の解決を図っていく。
協働事業提案制度は、事業の非継続性や提案される事業に協働事業の要件欠如などの課題があり、提案者の裾野が広がっていない。今後は、より活用しやすい制度へ見直しを引き続き進め、小規模事業への補助金メニューの新設等、新たな提案者や協働事業の発掘を図り、多様な地域課題の解決を目指す。また、市民活動の担い手の減少も課題である為、団体間ネットワークづくり促進や市民活動保険等の活動支援を継続していく。

計画	基本計画	分野	13	多文化共生・国際交流	基本政策	18	外国籍市民と地域住民がつながりを持つことができる	関係課	文化・スポーツ振興課、人権・市民相談課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
1	外国籍市民への支援	3	1	相談体制の充実	B	外国籍市民相談の実施 NPO等との協力体制の強化	コロナウイルス感染症対策を図りながら、継続して相談を実施。対面及び電話による相談とともにオンライン相談を取り入れ、相談機会の拡充を図っている。
			2	多言語での情報発信	B	多言語によるHPでの情報発信 事業案内等の多言語併記促進 案内表示等の多言語化 翻訳協力者の育成と活用	広報富士見の10か国語による多言語配信やふじみの国際交流センターへの6か国語によるホームページ翻訳掲載等を行っている。分かりやすい行政・生活情報を提供することで外国籍市民の暮らしを支援した。
			3	コミュニケーションの支援	B	日本語学習機会の提供 日本語学習支援者の育成と活用 翻訳機を使った窓口対応	当地域で活動するふじみの国際交流センターや富士見日本語教室、子ども日本語学習クラブが行っている多言語情報、日本語学習支援に対し、会場の確保や研修会、会議開催情報の提供等の支援を行い、日本語学習支援を行う団体に国際友好協会を通じて教材費補助を行った。外国籍市民が日本語を学ぶことで、日常生活におけるコミュニケーション能力向上が図られた。 市役所窓口等での翻訳については、希望部署が国の通訳支援試行事業を利用できるよう手続きを行い、日本語を話せない市民に対する窓口対応を支援した。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	相談所開設回数	99回（R1）	99回（R2）	98回（R3）				継続実施（R7）
KSF	多言語併記・表記された案内等の数	46件（R2）	51件（R3）	54件（R4）				51件（R7）
KSF	日本語学習の場の提供	0回（R１）	2回（R3）	3回（R4）				6回（R７）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	暮らしやすいと感じる外国籍市民の割合	-	–	–				75.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

・事業実施時にKPIのタイトルでアンケートを行っていないため、今後の事業開催に併せてアンケートを実施する。
・2市1町でふじみの国際交流センターに依頼している6か国語によるホームページは、対象言語を拡充し7か国語（ベトナム語の追加）対応とするため、引き続き調整していく。
・日本語教室等はボランティア団体や個人の負担が大きく、運営基盤が脆弱であるため、団体への支援を拡充や後継者の育成が必要。市と日本語学習支援団体との役割分担を整理し、今後の事業の在り方・進め方を検討する。

計画	基本計画	分野	13	多文化共生・国際交流	基本政策	18	外国籍市民と地域住民がつながりを持つことができる	関係課	文化・スポーツ振興課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
2	市民の理解促進	3	1	多文化理解の促進	B	多文化理解を促す広報の充実 国際交流フォーラムの開催	国際交流の最大のイベントで市・教育委員会・国際友好協会の3者が共催する国際交流フォーラムについては、従来の誰でも自由に参加できる方式から往復はがきによる事前申込制へ、民族衣装の試着やボッチャの体験など密になるイベントを、コロナ禍での開催に沿うような講演会やコンサートに変更した。やさしい日本語普及のための講演会や外国籍市民のスピーチなどを通じて、多文化共生への理解を深めた。
			2	コミュニケーション支援	B	やさしい日本語によるHPでの情報発信 やさしい日本語講座の開催	国際交流フォーラムにおいてやさしい日本語普及のための講演会を行い、外国籍の方に対してやさしい日本語で話すことが、相互理解を深めることに繋がることについて市民の理解が深まった。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	広報記事掲載数	0回（R元）	1回（R3）	1回（R4）				2回（R7）
KSF	やさしい日本語講座等開催数	0回（R元）	0回（R3）	1回（R4）				4回（R7）

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KPI	外国籍の人への理解が深まったと感じた割合	-	–	–				75.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

・事業実施時にKPIのタイトルでアンケートを行ってきていないため、今後の事業開催に併せてアンケートを実施する。
・国際交流フォーラムについては、引き続きコロナ禍の中での開催内容や方法の検討と、また、一方で参加人数の拡大が求められている。
・やさしい日本語に関する研修会の開催に向け、職員向けの研修として新年度での実施を職員課と協議している。
・外国籍市民に分かりやすい表現で情報発信することは市民と外国籍市民との相互理解のため非常に重要であり、今後も定期的にやさしい日本語に関する情報発信を行っていく.

計画	基本計画	分野	13	多文化共生・国際交流	基本政策	18	外国籍市民と地域住民がつながりを持つことができる	関係課	文化・スポーツ振興課

No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組	R4年度の成果及び効果（見込）
3	国際交流の推進	4	1	交流機会の充実	B	多文化理解を促す広報の充実 国際交流フォーラムの開催 外国籍市民が地域に溶け込む機会の提供	国際交流のイベントの多くは、富士見市国際友好協会が主体となっており、市・教育委員会・国際友好協会の3者が共催する国際交流フォーラムについては、今年度は内容を従来の誰でも自由に参加できる方式から往復はがきによる事前申込制へ、民族衣装の試着やボッチャの体験など密になるイベントを、コロナ禍での開催に沿うような講演会やコンサートに変更したため参加人数が減少したが、外国籍市民との交流を通じて、多文化共生への理解を深めた。入場制限（200人）を行った中で一定数の来場者を確保できたため進捗をBとした。変更し実施した。
			2	姉妹都市との交流	A	市民参加事業の充実 市民団体との連携	10月に姉妹都市記念日シャバツ市関連展示、姉妹都市記念日に伴う啓発用横断幕設置、Twitter・都市宣言塔・コミュニティビジョンによる周知を行った。 今年度は、富士見市・シャバツ市姉妹都市提携40周年、日本・セルビア共和国友好関係140周年となる記念の年であることから、今まで培ってきた姉妹都市交流の歴史及び昨年度の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会でのホストタウン実績を礎に、市制施行50周年記念事業の一つとして10月19日から23日までシャバツ市代表団が本市を訪問し、市民と交流したほか、今後に向けた市民主体の相互交流に関する確認書を締結した。 また、セルビアフェスタ（国際交流フォーラムを拡大し実施）、学校等での出前講座、市民向けセルビア語・セルビア料理教室を計4回開催し、これらの取組を通じてセルビア共和国及びシャバツ市への理解を深めた。

	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
KSF	国際交流フォーラムの参加人数	520人（R元）	－	140人（R4）				520人以上（R７）
KSF	姉妹都市交流事業の開催数	1回（R元）	13回（R3）	6回（R4）				４回（R７）

KPI	タイトル	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
	国際交流を楽しいと感じた参加者の割合	-	－	－				75.0%（R7）

課題及び次年度の方向性

・事業実施時にKPIのタイトルでアンケートを行ってきていないため、今後の事業開催に併せてアンケートを実施する。
・令和5年度以降は、今年度締結した市民主体の相互交流に関する確認書に基づき、姉妹都市交流を継続していく。
・本市は2.5%以上の外国人住民比率であり地域に多数の外国籍の方がいるため、市、富士見市国際友好協会、ボランティア団体の役割分担を今一度検討しながら、多文化理解への周知、交流機会の充実を進めていく。
・国際友好協会は会員数の伸び悩みや会員の高齢化により活動が停滞傾向にある。そうした中で今後の姉妹都市交流を市民主体で進めるためには、国際友好協会は中心となるべき組織であり、その活性化は必須である。